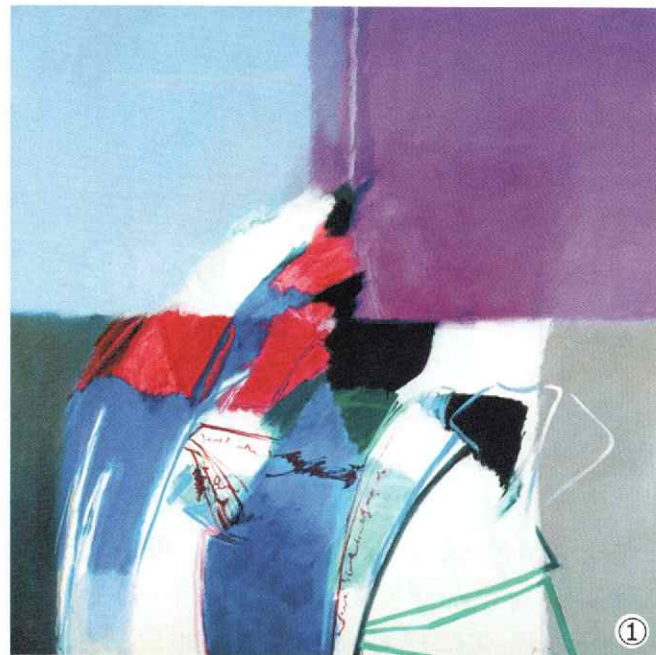




①

佐野は弘前市で菓子店を営む両親のもとに生まれました。女学校に入学した 1945 年に戦争が終わり、盛んに上映されるようになった戦前のフランス映画に親しむうち、パリで活動し早世した画家・佐伯祐三の画集に出合って衝撃を受けます。フランスへのあこがれを胸に 1951 年、佐野は東京の女子美術大学に入学しました。

洋画科に学んだ佐野は 1955 年、卒業の年に女流画家協会展、新制作展に入賞、入選を果たし、大学の助手を務めながら、画家としての道を歩み始めました。

1960 年代にはダークブルーを基調とした作品を描きますが、70 年代には明るく豊かな色彩と、筆の動きの痕跡を残したリズム感が特徴的な画風に移ります。さらに 80 年代には「動く抽象地図」と画家自身が呼ぶ、タイトルに世界各地の地名を採り入れた作品が登場します。そして 90 年代以降は、色とともに音楽を連想させる「ブルーノート」「オペラノート」といった作品や、「余白」「形」「時間」など多様なイメージをかきたてる題名の作品が現れます。

【写真①】：《青い背理 1》1975 年 162.1×162.1 cm キャンバス・油彩 青森県立美術館蔵

【写真②】：《青の歴》1965 年 130.5×162.0 cm キャンバス・油彩 青森県立美術館蔵

佐野ぬい 70 年余の足跡紹介 まだ見ぬ「青」を求めて

青森県立美術館

青森県立美術館で 10 月 13 日 (月・祝) まで、弘前市生まれの画家・佐野ぬい (1932-2023) の回顧展「佐野ぬい: まだ見ぬ『青』を求めて」が開かれています。深く印象に残る「青」を基調とした抽象的な作品群で知られる佐野の 70 年を超える画業を紹介します。

今回の回顧展は、14 歳のころ市内の百貨店を描いた作品から、学生時代のスケッチ、ドローイング、代表的な作品群、亡くなる前年の大作「セルリアンブルーの街」、そして青い色だけが描かれた絶筆まで、100 点余りを展示し、「佐野ブルー」の名で知られた画家の作品世界を紹介します。

担当の菅野晶さん (美術統括監) は「青森県立美術館では、2006 年の開館以来、コレクション展の特集展示などで佐野の作品世界を紹介してきましたが、100 点を超える作品と資料により創作活動を回顧する企画展は今回が初めての開催となります。佐野先生は生前、何度も当館の展示をご覧になってくださいましたが、青森県立美術館の展示室は、自分の作品が一番よく映えてみえるように思うとおっしゃって下さっていました。佐野の作品は、印刷や映像でも美しく魅力的ですが、実物は大きいものが多く、マチエールが豊かで存在感があります。ぜひ会場で実際の作品をじっくり味わっていただきたいです」と話しています。

期間中の休館日は 7 月 28 日 (月)、8 月 12 日 (火)・25 日 (月)、9 月 8 日 (月)・22 日 (月)、開館時間は 9:30 ~ 17:00 (入場は 16:30 まで)、観覧料は一般 1,700 円、大学生 1,000 円、18 歳以下・高校生は無料。



②

9 月 23 日 (火・祝) には蔵屋美香・横浜美術館館長が記念講演します。また、さまざまな青い絵の具を自由に混ぜて自分だけの色をつくる特別ワークショップ「私の青をみつけよう！」が 7 月 26 日 (土) から 8 月 24 日 (日) までの休館日を除く毎日と、8 月 30 日 (土) から 10 月 13 日 (月・祝) までの土日祝日、11:00 ~ 15:00 に開かれます (参加無料、事前申込不要、所要時間 25 分)。

問い合わせは佐野ぬい展実行委員会 (青森県立美術館内、電話 017-783-3000、ファクス 017-783-5244) へ。



青森西

新幹線がつなぐ高校生コラボ

八戸西

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑥⑥

青森県立青森西高等学校 (岡一仁校長) は本年度、青森県立八戸西高等学校 (坪宏至校長) と、地域を元気にするコラボ企画に取り組んでいます。両校を結ぶのは、ともに東北新幹線の駅とつながりが深いという間柄です。東北新幹線が全線開通して 15 年目、生徒たちは交流を通じて、大きく成長している様子です。

青森西高校は東北新幹線・新青森駅から、八戸西高校は同じく八戸駅から、ともに 1km 弱の距離にあり、生徒たちにとっては身近な通学の駅です。

東北新幹線は 1982 年 6 月 23 日に盛岡まで開業した後、20 年後の 2002 年 12 月 1 日によりやく岩手ー青森県境を越えて八戸開業を迎えました。その 8 年後の 2010 年 12 月 4 日に全線が開通しました。青森西高校でボランティア活動に取り組む青西おもてなし隊は、東北新幹線の新青森開業に合わせて活動を始めました。

青森西高校の岡校長が以前、八戸西高校に勤務していた縁があったことから、両校は昨年からの連携の可能性に

ついて検討し、今年から本格的な交流を進めることになりました。

5 月には青西おもてなし隊と八戸西高校の生徒会役員が初めてミーティングを行い、顔合わせの後、次回までにコラボの具体案をそれぞれ考えることになりました。

7 月 1 日に開いた第 2 回ミーティングでは、具体的にどのような活動を展開するか、具体的なプランを出し合いました。その結果、両校がともに地元を紹介するマップを制作すること、また、地域を代表する青森ねぶた祭りや八戸三社大祭のミニチュアの山車を作ってはどうか、というアイデアが出て、検討を深めていくことになりました。



弥生文化移行 クマと土偶に注目

三内丸山遺跡 特別展「縄文時代のおわり」

特別史跡・三内丸山遺跡で10月5日（日）まで、特別展「縄文時代のおわりークマとイネと土偶」が開かれています。西日本から広まったコメづくりの影響を受けた北東北が、どのように縄文文化から弥生文化へ移行変わったか、青森県内を中心とした多くの出土品を手がかりに、その詳細に迫ります。

北東北では今から約3100～2400年前の縄文時代晩期、縄文文化の最後を飾る、「亀ヶ岡式土器」に代表される亀ヶ岡文化が花開きます。一方、岩木山麓の砂沢遺跡（弘前市）では弥生時代前期の水田跡が見つかり、ここで見つかった土器を基準とする「砂沢式土器」は、亀ヶ岡式土器と、器の形や文様がそっくりです。つまり、北東北の縄文文化はスイッチが切り替わるように、コメ



づくりを基軸とする弥生文化へ移行したのではなく、縄文文化の伝統の上に、弥生文化が成立したとみられます。

また、北東

北の弥生時代の遺跡からは、土偶やクマをかたどった土製品が出土しています。これらは縄文時代の遺跡からも多数みつかり、やはり、当地の弥生文化には縄文文化が引き継がれた要素が含まれていることを示しています。

特別展では、これらの遺物を紹介しながら、北東北における縄文から弥生への過渡期の様子を探ります。さらに、現在の青森県域がどのように西の弥生文化の影響を受けてきたか、その一方で、北海道の道南の文化が津軽海峡を越えてどう及んできたかについても展示します。

さらに、弥生時代中期に垂柳遺跡（田舎館村）で営まれた、当時としては広範囲の水田による稲作の様相と、その後の経緯についても解説します。

三内丸山遺跡センター保存活用課の永嶋豊課長は「縄文時代の晩期には、コメづくりに関する要素が青森県域へ入ってきた可能性がある。また、弥生時代のクマのつくりものや土偶は、縄文的な精神の復権なのか、あるいは弥生文化への対抗意識なのか、など、さまざまな観点から検討することができる。県内にはまだまだ未発掘の遺跡があるはずで、より多くの手がかりが今後、見つかりていくと期待される」と語ります。

担当の木村恵理文化財保護主事（写真）は「西日本はコメづくりが始まると、まつりの姿も変わっている。し

かし、北東北の人々はコメづくりを受け入れて生活スタイルが変わりながらも、伝統を受け継ぎ、まつりの姿が変わっていない点がとても興味深い」と話しています。

期間中、9月28日（日）までの土曜・日曜・祝日は、午前11時から20分程度のギャラリートークを行います（申込不要、定員15名・先着順、7月26日、8月9日・23日・24日、9月21日を除く）。

観覧時間は9月30日（火）までが9:00～18:00、10月1日～5日は9:00～17:00、いずれも入館は閉館30分前まで。8月25日（月）、9月29日（月）は休館。観覧料は一般990円、大学生等500円、高校生以下は無料で、特別展の観覧料で遺跡を含む常設展を見ることができます。また、7月26日・27日の「あおもりJOMON世界遺産フェスタ」、9月13日～15日の「さんまるJOMONの日」は、一般490円、大学生等250円、高校生以下は無料となります。問い合わせは三内丸山遺跡センター・保存活用課（電話017-782-9462）へ。



J R 東日本 青森営業統括センター

新青森駅一帯を学区とする青森市立新城中学校（横山博校長）は、新青森駅を拠点の一つにおもてなし活動を展開してきました。一連の取り組みに対し、JR 東日本青森営業統括センターは6月、感謝状を贈って労をねぎらいました。

同校は新青森駅から南西へ1km（ほど離れた丘陵上に位置します。ボランティア活動の一環として「折り紙金魚ねぶた」を制作し、同駅の旅行者などに配布してきました。また、新青森駅を通じて東京駅やJR 横浜線の小

新城中学校に感謝状

机駅（横浜市）にも折り紙金魚ねぶたを送り、駅利用者に配布したり、駅の装飾に活用してもらうといった活動を行ってきました。

新青森駅の吉田和男駅長が6月16日、同校を訪れ、ボランティア部の大柳真理子教諭と部長の山谷亮平さん（3年）に感謝状を手渡し、今後さらに同駅や地元の活動を活性化させる方法について語り合いました。

山谷部長は「感謝状をいただけて本当にうれしかった。僕は小学6年生のころから3度、新青森駅で折り紙金

魚ねぶたを手渡ししてきました。先輩から受け継いだ活動が形になった感じがして誇らしかったです」と感慨深げでした。

横山校長は「お客さまの旅の記念に、手作りの折り紙金魚ねぶたを配付する活動は、本校の教育活動の核を成しています。生徒一人一人が誰かのために、互いの喜びのために、今後も多くの人と繋がりながら、思いを伝える活動として続けていきたい」と話していました。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（6月1日～9月30日は18:00）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般：500円（400円）大学生等：250円（200円）
高校生以下：無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）
お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術

三内丸山遺跡センター レポート 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月26日～1月1日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります
観覧料 一般700円（560円）／大学生400円（320円）／
18歳以下および高校生 無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。
お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）約15分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント
＜ネット情報＞
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ



下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

